

1 今年度の具体的な取組と自己評価

重点目標	教育活動の具体的な取組と自己評価
<p>(1) 学習指導</p> <p>① 進学対策の充実を図るため、5月までに「かもめ塾」を立ち上げ、6月から週休日の学習活動を年15回程度実施する。</p> <p>② 夏季講習は、20講座を開講し、延べ600名以上を参加させる。</p> <p>③ 生徒による授業評価を年2回実施し、理解度・満足度において肯定的評価を80%以上とする。</p>	<p>① 国・数・英の3教科の教員7名体制で週休日の学習活動を年26回実施し、約10名の生徒が定着した。来年度は、進路指導部が主体となり、1・2年次に対して実施する。</p> <p>② 夏季講習は、8教科25講座を開講し、延べ861名が参加した。</p> <p>③ 7月と2月に生徒による授業評価を行った。7月は理解度78.2%、満足度84.8%で、2月は理解度81.7%、満足度86.7%で、理解度、満足度ともに肯定的評価の割合が向上した。</p>
<p>(2) 生活指導</p> <p>① 「授業を大切に」を第一に掲げ、「授業を大切に」週間を2回設定するとともに、常に教職員が授業規律の確保・維持に努め、授業開始時刻と同時に授業を始め、生徒に「時間を守る」意識を育成する。</p> <p>② 特別な支援が必要な生徒への生活指導について、教育支援委員会と連携して実施する。</p> <p>③ 毎日の清掃指導の充実を図り、来校者の清潔感に関する肯定的回答を90%以上とする。</p>	<p>① 「授業を大切に」週間を6・2月に設定し、授業開始時刻・終始の挨拶・授業準備・授業中の集中などを徹底した。学校評価アンケートでは、教員の78.8%が「生徒は授業に意欲的に取り組んでいる。」と回答した。</p> <p>② 毎週1回開催された教育支援委員会において、特別な支援が必要な生徒(述べ335名)の情報共有及び支援方法の検討を行った。また、本校に配置されている専門家との相談(精神科医相談61名、特別支援教育心理士巡回相談6名、スクールカウンセラー409名、スクールソーシャルワーカー90名)、児童相談所及び東京都教育相談センター等と連携し、生徒一人一人に合った支援・指導の充実を図った。</p> <p>③ 毎日の清掃活動及び美化デーの指導の徹底を図った結果、5・11・1月の授業公開アンケートにおいて、全ての来校者(504名)が清潔感に関して、肯定的回答となった。</p>
<p>(3) 進路指導</p> <p>① ソーシャルスキルトレーニングとしてグループエンカウンターを計画的に3回行い、良好な人間関係づくりを推進し、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができる生徒を育成する。</p> <p>② 生徒の進路実現に向け、講習、補習、面接指導等を実施し、進路決定率80%以上とする。</p>	<p>① 1年次において、4月及び1月に教育庁高等学校教育指導課から派遣された外部講師を招いて、コミュニケーション能力向上を中心としたエクササイズを行い、10月には本校独自のコンセンサスゲームでグループワークを実施した。</p> <p>② 進路指導部教員が中心となり、「進路ニュース」を年間9号発行し、学級担任と連携した個別指導を徹底した。また、今年度から学力テストを学校全体で統一して、生徒一人一人の学力を分析し、進路指導に生かした。卒業時の進路決定率は、86.5%であった。</p>

<p>(4) 特別活動・部活動</p> <p>① I部、II部、III部の生徒が一堂に会する学校行事、生徒会活動をより充実させ、体育祭・文化祭等への参加率を80%以上とする。</p> <p>② 部活動の振興予算の重点配布を有効活用し、部活動を活性化させ、部活動加入率65%以上、全国レベルの大会出場については2つ以上の部活動を目指す。</p>	<p>① 生徒の参加率は、体育祭84.3%、文化祭80.2%であった。文化祭は入場者が1,727名で5年連続1,500名を超え、大盛況であった。来年度は、体育祭においても保護者の参観を受け入れられるようにする。</p> <p>② 部活動加入率については、67.0%であり、昨年度よりも8.8ポイント上回った。</p> <p>また、柔道部男女、卓球部、バドミントン部、剣道部の4つの部活動が全国大会に出場し、柔道女子団体優勝、男子団体3位、卓球女子団体3位、バドミントン男子団体3位となった。</p>
<p>(5) 健康づくり</p> <p>① 週5日間、カウンセリングルームにスクールカウンセラー、フレンドシップアドバイザーが常駐する体制を構築する。</p> <p>② 新たな感染症、心の健康づくり、食物アレルギー等の健康課題を理解するための校内研修会を開催し、組織的で具体的な取組への実践力を高める。</p>	<p>① 週1回の都配置のスクールカウンセラーのほかに、本校独自のスクールカウンセラー（週1回）及び心理学を学ぶ大学院生6名をフレンドシップアドバイザーとして配置し、毎日カウンセリングルームに担当者が常駐する体制を作った。また、フレンドシップアドバイザーは、年間422名の生徒に対応した。</p> <p>② 4月当初に食物アレルギー疾患対策のため、全教員で校内研修を実施し、練習用のエピペンを体験した。</p> <p>また、アレルギー対応委員会を設置し、取組を強化した。</p>
<p>(6) 募集・広報活動</p> <p>① 校内において学校説明会を7回実施し、参加者数を875名以上とする。</p> <p>② 退職教職員等ボランティアも活用し、563名以上の個別学校見学へ丁寧に対応し、入試倍率において2倍以上を堅持する。</p>	<p>① 学校説明会を7回、授業公開週間を年3回実施し、参加者は、学校説明会が1,174名、授業公開が604名で合計1,778名であった。また、ホームページを年間38回更新して広報活動に努めた。</p> <p>② 個別学校訪問は9年連続で400名を超え、入試倍率は、2.10倍となり、第一次募集になってからも4年連続2倍以上、チャレンジスクールでは唯一2倍以上で9年連続最高倍率となった。</p>
<p>(7) 学校経営・組織体制</p> <p>① 授業料・学校徴収金等の滞納者数ゼロ、自律経営推進予算のセンター執行割合60%を目指す。</p> <p>② 施設・設備の安全確認・効率的利用の視点から行内外を巡視し、より安全・安心な学校環境を整備し、不備による事故をゼロとする。</p>	<p>① 教育職員と行政職員が協力して、学校徴収金滞納者へ働きかけ、全ての生徒が納入した。また、自律経営推進予算のセンター執行率は、63.5%であり、計画的な予算執行ができた。</p> <p>② 施設・設備の安全確認のため、管理職・経営企画室長による校内巡回及び教職員による校内巡回を毎日3回行い、安全な環境を整備した。また、防災教育推進委員会の外部委員を地域の消防団から招き、避難訓練等を実施し、地域と連携した防災教育を推進した。</p>

※ 自己評価については、生徒による授業評価、学校運営協議会アンケート、学校見学者アンケートなどの結果による。

## 2 次年度以降の課題と対応策

### (1) 学習指導

- ① 分かりやすい授業を実現するため、「大江戸高校独自の授業方法」について更に研究を進め、一歩進んだ学校全体での共通の指導方法等を確立する。
- ② 全ての生徒に対して、義務教育段階の学力を身に付けさせるために、学校全体で基礎学力向上と定着を図る。特に、自発学習へ向けた指導を充実させ、環境整備を行う。
- ③ 進路指導部が中心となり、学力上位層に対して、土曜講習等の適切な指導を組織的に行い、更なる学力向上を目指す。

### (2) 生活指導

- ① 家庭と連携して積極的に登校を促し、遅刻指導を中心に指導体制を見直し、学校定着を図る。
- ② 特別な支援が必要な生徒への生活指導について、教育支援委員会を中心に専門家及び関係機関と連携しながら実施する。

### (3) 進路指導

- ① 1年次において、系統的・計画的にグループエンカウンターを実施してコミュニケーション能力育成を図る。
- ② 障害のある生徒に対する適切な進路指導を充実させる。
- ③ 卒業後の移行支援を見据えての指導に取り組んでいく。

### (4) 特別活動・部活動

- ① 生徒会・委員会組織を活性化し、生徒が主体的に行事に関わるよう指導を充実させる。
- ② 部活動の加入率を高め、活性化を図り、全国大会出場を目指す。

### (5) 健康づくり

- ① 心の健康づくりを充実させるため、一人一人に適した専門家に繋ぎ、協力して対応していく。
- ② 教育支援委員会を中心に、相談体制を再構築し、全教員の共通理解の下、組織的な指導を行う。

### (6) 募集活動（地域交流等）

- ① 学校広報誌「大江戸かわらばん」を年間4回発刊するとともに、ホームページの充実を図る。
- ② 入学当初に中学校から生徒指導情報を引き継ぎ、生徒一人一人に丁寧に対応し、トラブルの未然防止に努める。

### (7) 学校経営・組織体制

- ① 校内研修を充実させ、学校経営に関する教職員の共通理解を一層深め、一貫した指導を行う。
- ② 施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。